

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(上柴西小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
上柴西小	下回った	下回った	下回った
埼玉県	68	58	58
全国	66.8	58	57.1

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	上柴西小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	88.6	94.3	93.7
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	77.2	83.9	81.9
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	85.7	91.9	91
学習習慣	分からぬことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている	78.6	84.8	81.7
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上、勉強をする(学習塾や家庭教師、ICTを活用して学ぶ時間も含む)	61.4	56.2	54
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり1時間以上勉強をする	55.6	49	47.1
	学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上、読書をする	20	31.9	31.1
教科への関心	国語の勉強は好きだ	50	59.3	58.3
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	91.4	92.1	90.4
	算数・数学の勉強は好きだ	55.7	58.7	57.9
	算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	91.4	93	91.6
	理科の勉強は好きだ	77.1	81.4	80.1
	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	75.7	81.7	79.9
主体的・対話的な学び	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	75.7	84.7	78.1
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた	62.8	75.7	68.6
	授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	70	82.8	77.8
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができた	75.7	87.9	84.9
その他	自分には、よいところがあると思う	67.2	88.5	86.9
	将来の夢や目標をもっている	84.3	84.7	83.1
	人の役に立つ人間になりたいと思う	97.1	96.8	96.4
	今住んでいる地域の行事に参加している	25.8	39.1	39.4

【質問紙分析】

- ・全体的にみると生活習慣や教科への関心、主体的・対話的な学びの項目の割合が埼玉県や全国と比べて低いのは、安定した生活リズムが身に付いておらず、学びに向かう姿勢、学習への満足度が低いことが原因だと考えられる。そのため、家庭に働きかけ生活習慣の安定化を図ったり、学ぶ楽しさを実感できるような授業展開の工夫を行ったりしていく必要がある。
- ・「学校の授業時間以外に、普段 1 日当たり 1 時間以上、勉強をする（学習塾や家庭教師、ICT を活用して学ぶ時間も含む）」「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たり 1 時間以上勉強をする」割合が県や全国と比べて高いのは、前もってテストの日程を児童に知らせたり、家庭でもできる学習を積極的に伝えたりしているためだと考えられる。
- ・「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができた」割合が県や全国と比べて低いのは、学習の意義や有用感をあまり実感することができていないことが原因だと考えられる。そのため、他教科との関連を意識した学習活動を取り入れ学びのつながりを感じさせたり、話合いや振り返りの時間を確保し自分の成長や気付きに目を向けられるような取組を行ったりしていく必要がある。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

- 出題の趣旨は、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る」であるが、授業において書く活動を意図的に設定している結果だと考えられる。
- 主題の趣旨は、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る」であるが、漢字小テストや漢字のまとめ、家庭学習など繰り返し取り組んだ結果だと考えられる。
- 出題の趣旨は、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る」であるが、ページがまたぐ問題やこのような問題形式に慣れていないためと考えらえる。
- 出題の趣旨は、「時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかを見る」であるが、授業で取り扱う配当時間が短い単元の定着が不十分だと考えらえる。
- 出題の趣旨は、「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかを見る」であるが、条件に当てはめて文章を書くという経験が少ないと考えられる。

【算数・数学】

- 出題の趣旨は、「角の大きさについて理解しているかどうかを見る」であるが、授業において角の大きさは二つの辺の開き具合で決まるという考え方方が身に付いた結果だと考えられる。

○出題の趣旨は、「異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかを見る」であるが、授業や家庭学習等で繰り返し問題を解き、基礎的な分数のたし算の計算の仕方が身に付いた結果だと考えられる。

●出題の趣旨は、「台形の意味や性質について理解しているかどうかを見る」であるが、台形という形は理解しているが、台形の特徴や性質等については理解が不十分であると考えられる。

●出題の趣旨は、「棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができるかどうかを見る」であるが、表や項目の見方を正しく理解していないためと考えられる。

【理科】

○出題の趣旨は、「ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いているかどうかを見る」であるが、おしべとめしべについて、知識だけでなく実際の図や写真から正しく理解することができている結果だと考えられる。

○出題の趣旨は、「電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わることの知識が身に付いているかどうかを見る」であるが、電磁石の強さを強くするには、電流を強くしたり、コイルの巻き数を増やしたりするということが実験などの経験から身に付いた結果だと考えられる。

●出題の趣旨は、「身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかを見る」であるが、アルミニウム、鉄、銅のどれが電気を通すのかという知識が身に付いておらず、3年の電気の単元との学習事項とを結び付けて理解していないためと考えられる。

●出題の趣旨は、「発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかを見る」であるが、実験は行っているが何のための実験なのか、結果からどのようなことがわかるのかといった、条件や考察等に対する思考が不十分であると考えられる。

課題への取組・改善策

【国語】

- ・説明文の授業の中で、根拠を明らかにしながら自分の意見を書く活動を段落ごとに行っていく。
- ・コラム学習や読み取りワーク等を活用し、文章パターンに慣れさせていく。
- ・朝学習や家庭学習等で冊子の形をした問題に取り組む機会を設定していく。

【算数・数学】

- ・言葉や式を使って説明する、問題文を読み取るなどの活動の充実を図っていく。
- ・分数（1を何等分かしたもの）等の意味について、単元で学習したら終わりではなく他の単元でも取り上げ説明させるなどの活動を意図的に取り入れ既習事項の定着を図っていく。

【理科】

- ・関連する単元の復習を導入で行うことで、学習への意欲を高めるとともに、系統性をもって学習を進めることができるようにしていく。

- ・問題（課題）とまとめの整合性を意識させるため、各実験において調べたい事柄をどのような方法で調べていくのかを実験計画の際に抑えることができるよう児童に考えさせる場を設定していく。

【その他】

- ・算数、国語とともに、記述式の問題に対し、全体的に解答欄がいっぱいになるまで、自分の考えを書こうとしていた。本校の学校研究課題を通して表現力を身に付けさせる取組が結果として表れているため、本校の強みとして継続して取り組んでいく。
- ・週1回取り組んでいる学力向上プロジェクトをはじめ、コバトンプリント、過去問等様々問題に取り組めるように環境を整えていく。